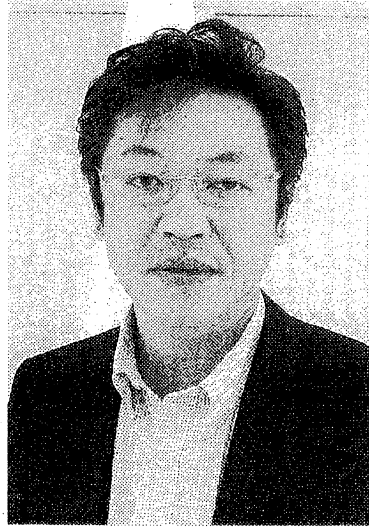


薄地高密度織物に集中



梶 政隆カジ
グループ代表

10月に、仮燃り加工のカ
ジナイロンをはじめ、織布
のカシレーネ、編み立ての
カシニット、織維機械の梶
製作所など、カシグループ
全社の社長に就任した。グ
ループ企業のノウハウを生
かした、細番手のナイロン
高密度織物の生産には定評
がある。

織物の生産量は年
間24万疋で、織機台
数は協力工場も含め330
台ほど。生産品種は、産業
資材が30%、残りが衣料用

頂点商品として海外へ

途で、ほとんどがアウトド
ア向けだ。資材は、技術革
新により需要が急減するこ
とがあるので、衣料との比
率はこのくらいが適正だと
感じている。

5年ほど前から40疋より
太い糸を使った織物の受注
はやめ、自社の技術で差別
化できる薄地高密度織物に
特化した。こうした領域
は、設備をしっかりと対応し
ないと、いいものが上から
ない。そのため、細番手対
応織機や経糸の準備機など、
設備投資に毎年数億円

を投入している。受注先の
メーカーへの提案を強める
ために、薄地化、ストレッ
チ、意匠性など開発にも力
を入れる必要がある。開発
陣が色々な織物に挑戦しや
すいように、開発専用織機
を25台設置した。

● 現在、70%強が海
外向け。欧米をはじめ
韓国でもアウトドア、ゴ
ルフがブームになってお
り、引き合いが強まっている。
今期は増収増益を達成
したが、円高や、一般的に
ナイロン織物に比べ低い生

産性、原系の供給不安など
課題も多い。しつかり日本
のテキスタイルメーカーと
して生き残っていくために
は、技術しかない。頂点商
品として存在感を出してい
けば、当分いけると思う。
商品の高付加価値化、人員
の省力化、効率化が今後の
課題だ。

● 産地全体の縮小は続いて
いるが、北陸の技術力は世
界に誇れるものがある。機
屋同士の連携強化、技術交
流などで、産地活性化へ微
力ながら寄与したい。

トップに音く